

由良川大規模内水対策部会の 各機関の取組の進捗状況

令和4年3月末時点

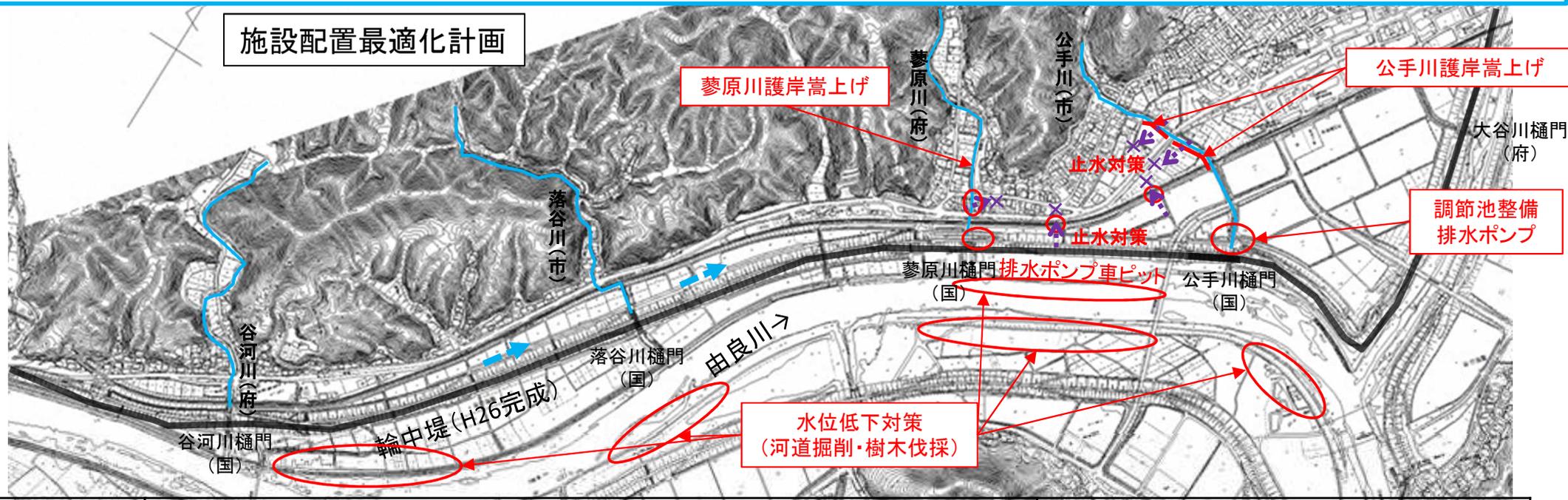
大江町河守～公庄地区内水被害軽減対策(ハード対策①)

課題

・内水浸水被害が大きい、大江町河守～公庄地区における内水被害軽減対策

取組内容

●平成29年台風21号及び平成30年7月豪雨により甚大な内水被害を受けた大江町河守～公庄地区においてモデル地区としての具体的な内水対策を実施する。



役割分担	主な浸水被害軽減の連携メニュー[短期対策 *1]	対策効果
国交省	<ul style="list-style-type: none"> 由良川本川河道掘削、樹木伐採 流域内水対策への財政支援 	<ul style="list-style-type: none"> 平成29年台風21号出水規模の床上浸水が解消 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 平成29年台風21号浸水被害戸数 床上戸数 17戸 床下戸数 18戸 </div> <p>*排水ポンプ車活用で、さらに効果向上 2</p>
京都府	<ul style="list-style-type: none"> 藪原川護岸嵩上げ・ピット 排水ポンプ整備への連携協力等 	
福知山市	<ul style="list-style-type: none"> 公手川改修・護岸嵩上げ、関連止水対策 調節池(約5千m³)、排水ポンプ(約3m³/s) マイマップ、マイタイムラインでの避難等 	

*1 短期対策として平成29年台風21号相当規模の雨を対象に、床上浸水解消を目標とする。

大江町河守～公庄地区内水被害軽減対策(ハード対策①)

課題

・内水浸水被害が大きい、大江町河守～公庄地区における内水被害軽減対策

取組内容

●平成29年台風21号及び平成30年7月豪雨により甚大な内水被害を受けた大江町河守～公庄地区においてモデル地区としての具体的な内水対策を実施する。

【大江町河守～公庄地区内水被害軽減対策】

<福知山市取組内容>

- ・準用河川 公手川改修
- ・調節池整備(約5千 m^3)
- ・排水ポンプ施設(約3 m^3/s)

ほか

○社会資本整備総合交付金(総合流域防災事業)により実施

・令和元年6月 福知山市補正予算

ポンプ施設詳細設計業務 ⇒ 令和2年度末完成

公手川河川改修工事基本設計業務 ⇒ 令和2年度末完成

・令和元年12月 福知山市補正予算

調節池整備に伴う補償、用地買収関連費 ⇒ 令和2年度末完成

・令和2年度からは、ポンプ場整備、調節池整備、河川改修工事に順次着手。

⇒ **令和4年出水期までに1 m^3/s のポンプ設備稼働を目指す。**

・令和元年から概ね5か年での計画であるが、できるだけ早期の効果発現を目指す。

福知山市内における内水被害軽減対策(ハード対策②)

課題

・福知山市における内水被害軽減対策

取組内容

●河川機械設備革新的技術実証事業(マスプロダクツ型排水ポンプ設備現場実証)に応募し、協力可能な市町の1つ(6市町)として選定された。



土木研究所での実証試験

河川機械設備革新的技術実証事業

- ・R3.12.16からR4.1.21までの期間で国土交通省が公募。
- ・自動車業界とポンプ業界の異業種連携により、マスプロダクツ型排水ポンプを開発した。
- ・今回の実証事業は出水時にポンプを稼働させ、耐久性・操作性・現場適用性・維持管理性などの検証を行うもの。

出水時情報提供(ソフト対策)

課題

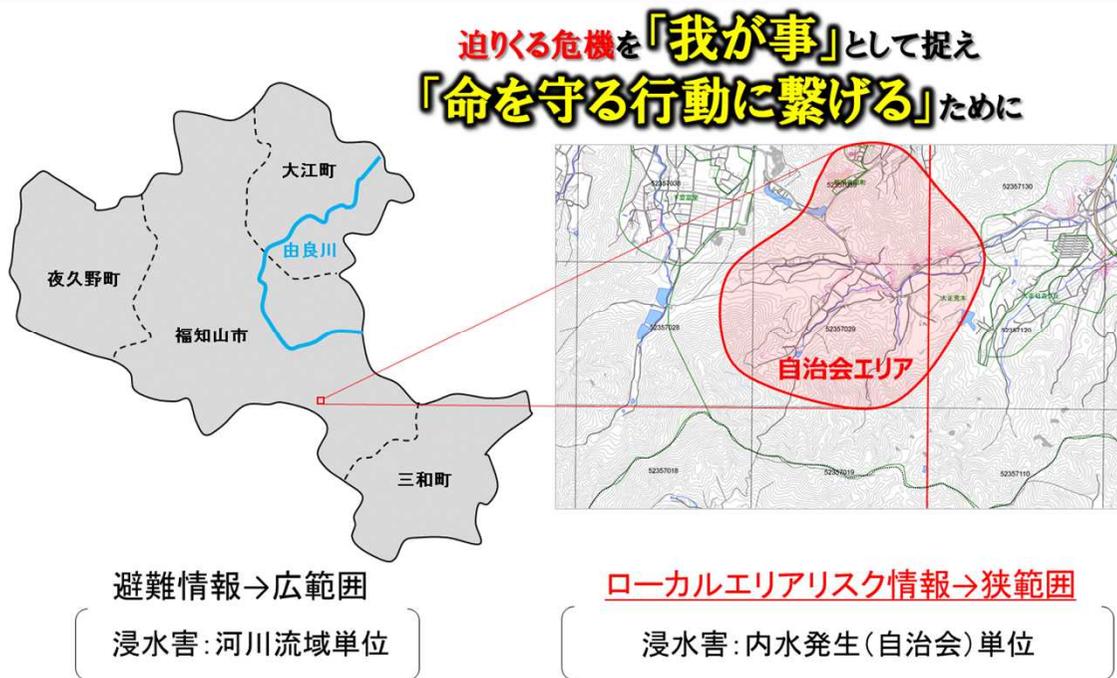
- ・災害時、様々な情報伝達手段により情報発信しており、情報は伝わっているが、避難に繋がっていない。
- ・災害時には、広域的な数多くの情報があふれており、市民が自分自身に関わるリアルで、かつ避難行動に繋げるべき情報として捉えられていない。
- ・それぞれの災害リスクに応じて市民が切迫感をもって、自分事として捉えられる避難スイッチをマイマップ・マイタイムラインで位置づける必要がある。

取組内容

- ①各地域において、それぞれの災害リスクに応じて市民が切迫感をもって、自分事として捉えられる避難スイッチとなる情報として、マイマップの取組を通じ、ローカルエリアリスク情報(※)の設定を行う。
- ②防災アプリ等デジタル防災行政無線システムにより避難情報等を補完するローカルエリアリスク情報の発信を行うとともに、地域が主体的に情報収集を行うよう取組を進める。
- ③地域住民が参画してマイマップ・マイタイムラインを作成するとともに、訓練への活用を含め避難の実践に繋げる。

※ローカルエリアリスク情報とは、、、

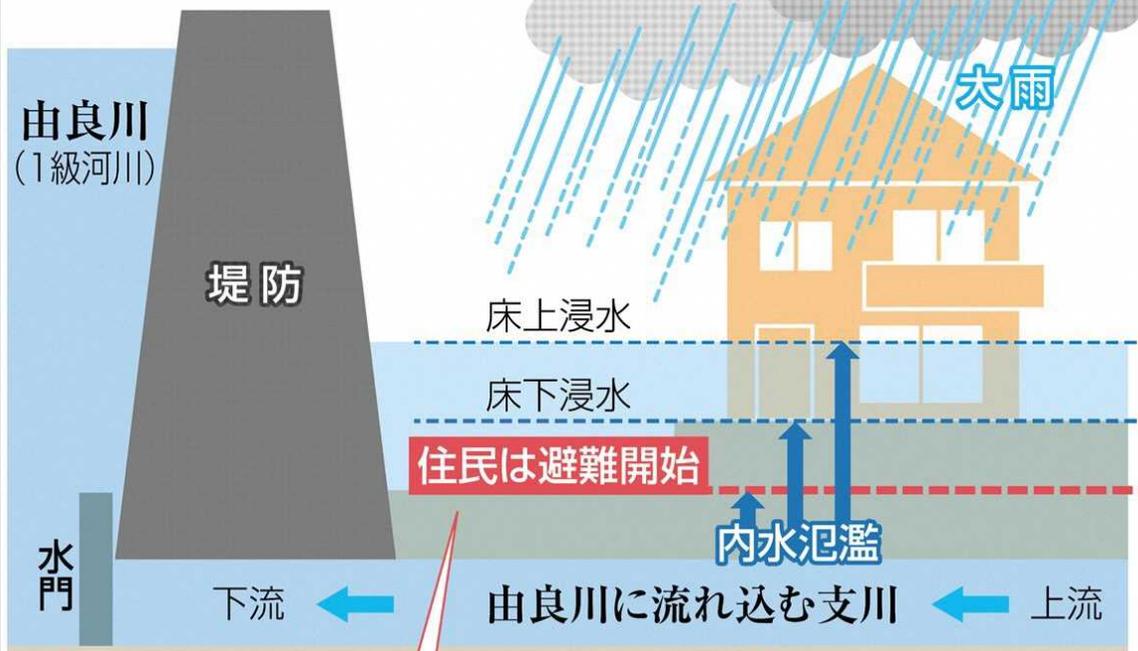
市民の的確な避難を促すために、過去の内水災害の発生履歴から災害発生のメカニズムを分析した結果をもとに、災害が発生する可能性が高まっていることを市民に伝えることが重要であり、そのために、市民に身近な場所の浸水情報や河川水位情報を活用した「避難スイッチ」となる基準値を地域ごとに設定し、**法律に基づく避難情報等を補完するローカルエリアリスク情報として提供する。**



出水時情報提供(ソフト対策) 取組内容①

- ・過去の災害実績等を踏まえ、支川下流域の内水位の状況から避難路等となる道路の最低地盤高と床下、床上浸水までの時間を推定し、**市と地域(例えば、自主防災組織等)が連携して避難行動を開始するスイッチとなる基準水位を設定**する。
- ・内水位が、あらかじめ地域で定めた**避難スイッチとなる基準水位に到達した時点で法律に基づく避難情報を補完する情報として地域に発信**、また、地域においても水位計、浸水センサー等を活用し、主体的に情報収集を行い、それに基づき**避難を実践**する。
- ・令和元年度より内水氾濫の被災経験がある**3地域をモデル地区(大江町蓼原、安井、観音寺)とし検証を行ってきた。令和3年度より本格運用を行い、令和3年度末時点で11地域に23台の浸水センサーを設置完了**している。

福知山市が取り組む内水氾濫の避難スイッチのイメージ



過去の災害時に最初に浸水した地点などの高さ。ここまで浸水したらセンサーが感知して地区に危険情報を発信(避難スイッチオン)

(福知山市の公表資料を参考に作成)

(西日本新聞社提供)

福知山市避難のあり方検討会

福知山市では、過去の具体的な災害履歴をベースにして、実践的な避難のあり方について、6つのテーマを設定し、有識者や地域代表、国、府などの関係機関、消防団などに参画いただき、「福知山市避難のあり方検討会」を設置し議論を行い、令和3年3月に最終報告をとりまとめたところである。本件についてもテーマの一つとして設定しており、今後、具体的な取組を進めることで、自助・共助・公助が一体的に連携した「市民とともに作る災害に強いまちづくり」を進めていくこととする。

<6つの検討テーマ>

- ① 避難のスイッチとなるどんな情報をどのような形で発信するのか
- ② 高齢者や災害時要配慮者等に情報をどのように伝えるのか
- ③ 高齢者等の災害時要配慮者など、住民をどのように誘導するのか
- ④ 避難先はどうするのか
- ⑤ 避難所の受入れ体制・運営はどうするのか
- ⑥ 災害リスクを理解し避難行動につなげるための防災教育の推進

出水時情報提供(ソフト対策) 取組内容②

- ・ローカルエリアリスク情報の発信に必要となる水位計・浸水センサー等で得られる浸水情報を活用し、基準水位に到達した時点で、**防災行政無線、防災アプリにより対象の自治会単位で地域住民に適時・的確に補完情報として発信を行う。**
- ・地域においても主体的にインターネット等で提供される水位情報を収集するため、**モデル実施地区や消防団にタブレットを配備し、令和3年7月4日には情報連携訓練を実施し、課題検証を行った。**
- ・市民が気象情報や避難情報、ローカルエリアリスク情報を日常生活行動中においてもタイムリーに入手できるよう、スマートフォン、タブレット等の携帯端末の活用を踏まえた**防災アプリを令和3年度5月より運用を開始し、登録促進を行う。**



センサーが浸水を検知すれば、LINE及び福知山市防災アプリ、防災行政無線にて市から地域への情報発信

観音寺に設置の浸水センサー

令和3年8月14日豪雨時の観音寺での活用事例

- ・センサーが浸水感知
- ・自治会長は、各戸に配備されている**有線放送で水位の状況を住民周知**
- ・谷川の土手の決壊を防止するため土のう設置
- ・**子ども会防災LINE**  **で状況報告**
- ・再度、有線放送で災害対策本部の設置と水位状況のお知らせ

地域と協働で過去の災害履歴の調査を行い、水位計、浸水センサーの設置による避難スイッチの設定を推進し、「**自分事として捉えられる**」情報発信を行う地域の拡大を図っていく。

出水時情報提供(ソフト対策) 取組内容③

・ローカルエリアリスク情報を市民の自主的な避難行動に繋げるため、**自治会ごとに市民が参画してマイマップ・マイタイムラインを作成・共有することが重要**であり、その中で地域の災害リスク・災害履歴を踏まえた避難場所、ローカルエリアリスク情報の考え方を踏まえた避難スイッチの設定や連絡体制、災害時要配慮者支援等災害時の取るべき行動等について確認するとともに、**避難訓練への活用も含め避難の実践に繋げていく。**

マイマップ・マイタイムラインに基づく避難訓練の取組



内水被害の軽減②

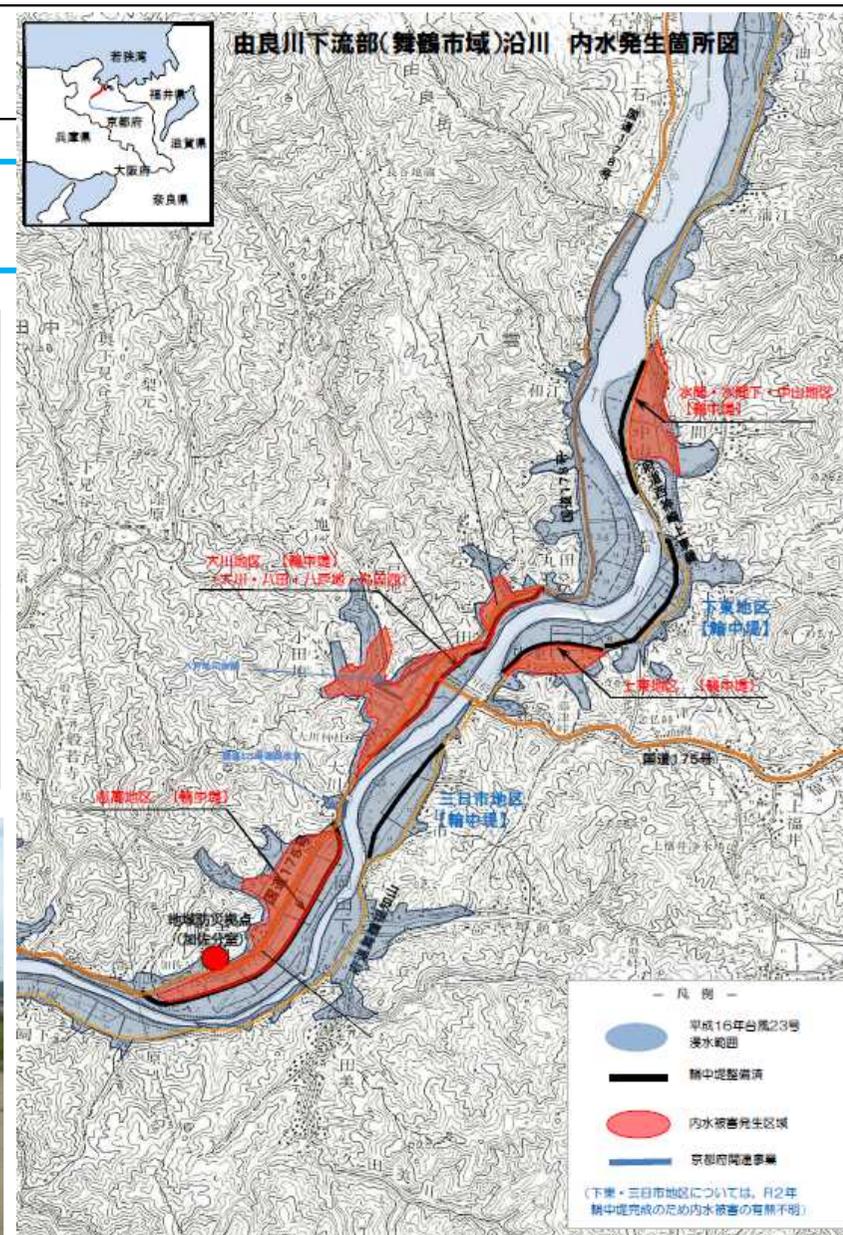
課題

・輪中堤内の顕在化した内水被害への対策

取組内容

■ 輪中堤内の内水被害軽減対策の検討

輪中堤整備の完了により顕在化した内水による浸水被害に対して有効な浸水被害軽減対策を検討する。
浸水メカニズムのシミュレーションを完了した志高地区で実施予定。



内水発生状況の共有・提供

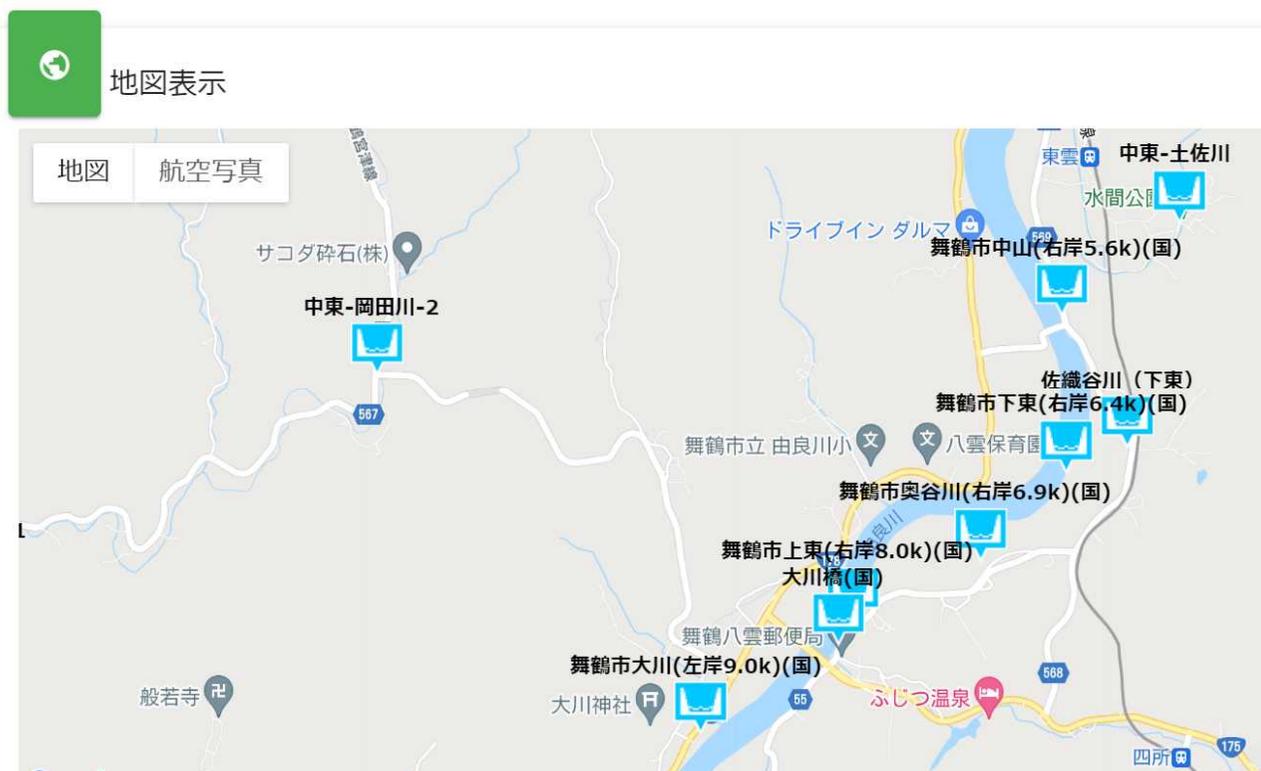
課題

・輪中堤内の内水が発生し始める時間帯の検証及び情報提供

取組内容

■舞鶴市総合モニタリングシステムの運用開始

- 令和3年7月、舞鶴市総合モニタリングシステムの運用を開始し、市内全域の河川水位を一つの画面上に表示し、河川の状態を図示したイラストやグラフで、水位の変化を視覚的に確認できるようにした。



【舞鶴市総合モニタリングシステム WEB画面】

・由良川流域においては、市の管理河川(間川、佐織谷川)に水位計を設置。



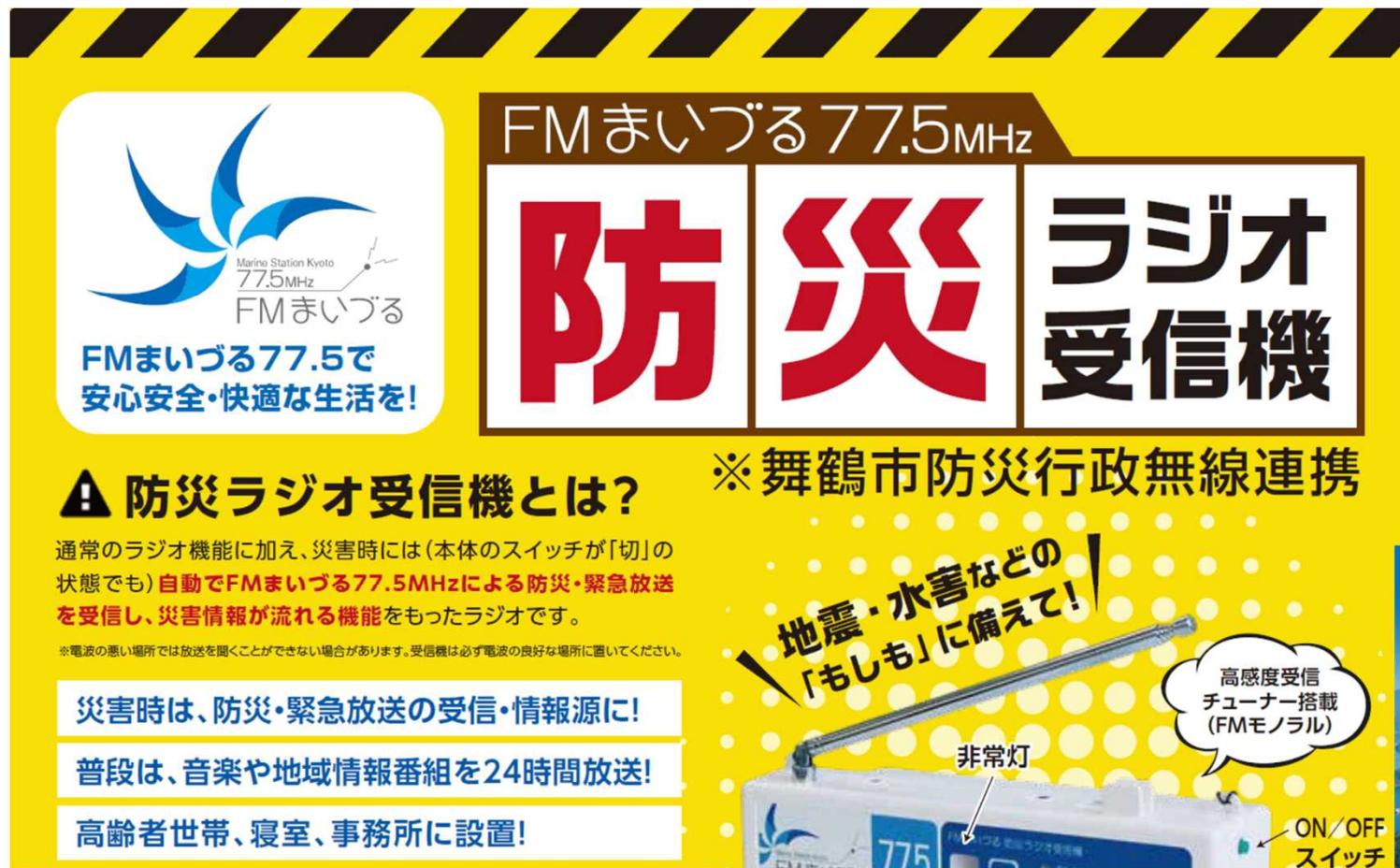
・市民に、国・府・市が管理する河川の水位情報をわかりやすく提供し、避難行動をとる際の判断指標として役立てることができる環境を整えた。

内水発生状況の共有・提供

取組内容

■コミュニティFMの加佐中継局を整備

- 令和3年10月、コミュニティFMの加佐中継局を舞鶴市で整備し、由良川流域の受信エリアの拡大を図るとともに、防災行政無線と連動した自動起動放送が可能となる環境を整えた。



FMまいづる77.5MHz

防災ラジオ受信機

FMまいづる77.5で
安心安全・快適な生活を!

※舞鶴市防災行政無線連携

▲ 防災ラジオ受信機とは？

通常のラジオ機能に加え、災害時には(本体のスイッチが「切」の状態でも)自動でFMまいづる77.5MHzによる防災・緊急放送を受信し、災害情報が流れる機能をもったラジオです。

※電波の悪い場所では放送を聞くことができない場合があります。受信機は必ず電波の良い場所に置いてください。

災害時は、防災・緊急放送の受信・情報源に!

普段は、音楽や地域情報番組を24時間放送!

高齢者世帯、寝室、事務所に設置!

地震・水害などの「もしも」に備えて!

非常灯

高感度受信チューナー搭載 (FMモノラル)

ON/OFF スイッチ

・情報伝達手段のより一層の重層化を進展。



・市民に防災情報を速やかに伝え、迅速な避難行動を促す環境を整えた。



舞鶴の地域情報・災害情報は…

FM 77.5MHzで!

「ななこ」

コミュニティラジオアライ

五老ヶ岳ライブカメラ

KYOTO Malzuru Gorogatake Park

YouTube Live

海の京都見の情報発信!

舞鶴市

排水ポンプ車導入と運用

課題

- ・内水被害軽減に向けて、排水ポンプ車の効果的・効率的な運用

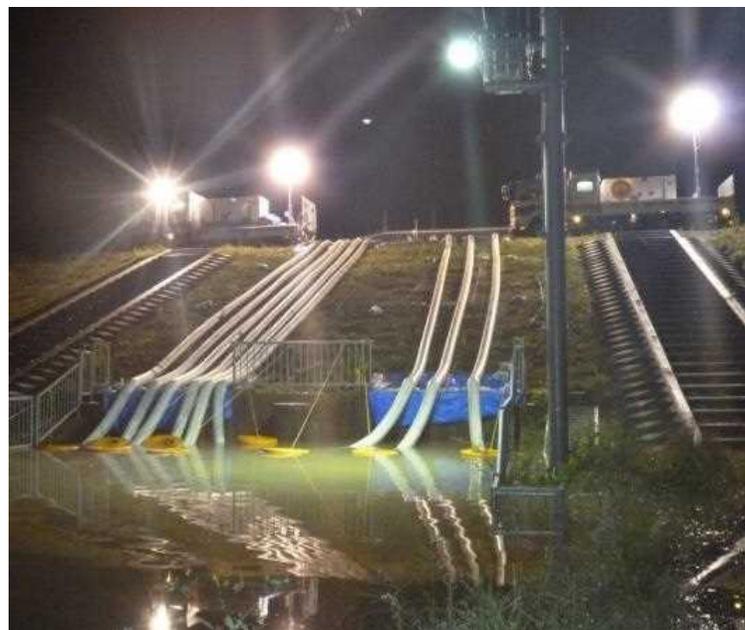
取組内容

- 排水ポンプ車の導入(排水能力 毎分30t)

- ・状況に応じて必要な場所に配置



【舞鶴市排水ポンプ車】



【排水ポンプ車稼働状況】



水害等避難行動タイムライン作成周知活動の実施

課題

- 平成25年台風18号、平成29年台風21号において、由良川沿川では内水による家屋浸水が発生した。
- 「自分だけは大丈夫」など“正常性バイアス”や市民の災害リスクの不認知等による避難率の向上が求められている。

取組内容

- 避難の実効性を高めるため、自治会長会や防災講座等において、避難行動タイムラインの作成を依頼するとともに、作成にあたっては、市職員等がワークショップのファシリテーターや資料作成などを行い作成支援を行う。

取組内容

- ・平成30年～令和1年
 - 作成済 4自治会（施福寺、里町、下市、西坂）
- ・令和2年
 - 作成済 14自治会（奥上林地区）
- ※新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、ワークショップの開催は、未実施。各自治会の中でご協議していただいた成果を資料としてまとめ支援。
- ・令和3年
 - 作成済 13自治会（中上林地区、新庄）



ワークショップの様子(里町)

綾部市街地の雨水対策

課題

- 平成25年9月台風18号、29年10月台風21号において、内水による家屋浸水が発生。
- 近年、頻発する台風や集中豪雨に伴い、樋門閉鎖の頻度が高まっており、内水氾濫への対策が求められている。

取組内容

- 近年多発する大雨に対応するため、市街地の「雨水対策基本計画」を策定 (H27)
- 内水被害の軽減に向けて、排水ポンプ車1台を導入 (H29)【短期】
- 雨水ポンプ場の整備 詳細設計、用地測量、用地買収 (H29～H30)【中期】
- 雨水ポンプ場の整備 土木・建築工事 (H30～H2)【中期】
- 雨水ポンプ場の整備 電気・機械設備工事 (R2～R3)【中期】
- 雨水ポンプ場の整備 外構工事 (R3)【中期】
- 雨水ポンプ場供用開始予定 (R4)

【短期】

○排水ポンプ車1台配備 (30m³/分)



H30年3月導入



排水ポンプ車の配備(H30.7月豪雨)
綾部市延町(古川樋門)



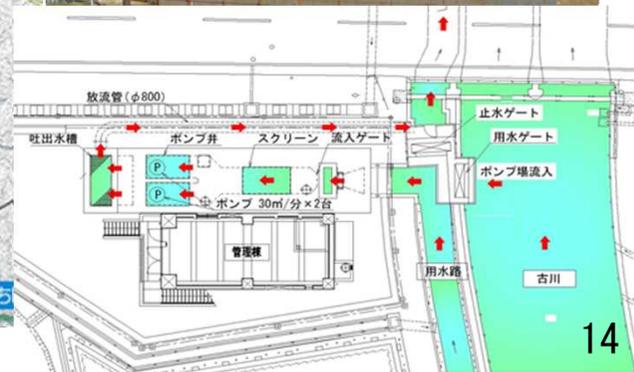
綾部雨水ポンプ場
(綾部市延町古川樋門付近)

【中期】

○雨水ポンプ場整備 (60m³/分) H29～R3



土木・建築工事完了



雨水ポンプ場全体配置図

地区防災計画等作成の推進

課題

- 河口部は低地であるため、本川の水位が上昇すると浸水・内水被害が発生する。
- 甚大な浸水・内水被害の経験がない住民の危機意識が低い。

取組内容

- (実績)由良川に係る避難勧告等発令基準を見直し、ハザードマップを作成し各戸へ配付周知(平成31年1月)
- (実績)水害等避難行動タイムライン・ワークショップ(地域防災リーダー研修会)を実施(平成31年3月2日)
- (実績)宮津市国土強靱化地域計画の策定(令和元年12月)
 - ・由良川の河川整備推進を、本市の国土強靱化地域計画で位置づけ(由良地区輪中堤等の整備を、重要業績指標に記載)
- (実績)地区防災計画作成等説明会(出前講座)の実施
 - ・由良地域の2自治会(浜野路自治会、港自治会)が地区防災計画を作成(令和2年3月)
 - ・他の由良地域自治会を含め、市内各自治会において地区防災計画策定に向けた説明会を開催し、計画作成を推進

1. 活動方針

(1) 平常時

- ① 防災資機材・備蓄品の整備点検
- ② 消火・防災訓練：森ヶ鼻への避難訓練、消火栓の取扱訓練

(2) 災害時

- ① 避難誘導・安否確認
- ② 初期消火活動
- ③ 有線放送による避難所開設案内、洪水浸水避難指示
- ④ 消防団との連絡

2. 緊急時連絡網

(1) 自治会

- 自治会長 ー 副会長、民生委員

(2) 自衛消防隊

- 自衛消防隊長(自治会長)による有線放送

3. 住民情報伝達

- (1) 自治会有線放送 防災無線放送の自動起動を計画中
- (2) 防災無線放送拡声子局
- (3) 防災メール 宮津市消防防災課による放送情報

4. マップ資料等

- (1) 由良川(洪水)防災マップ(抜粋)
- (2) 避難情報について
- (3) 由良海岸津波浸水想定
- (4) 立退き避難先
- (5) 消防水利等

宮津市による避難情報

避難準備・ 高齢者等避難開始	<ul style="list-style-type: none"> ★いつでも避難できるよう準備をしましょう。 ★避難に時間を要する方(高齢者等)は避難を開始しましょう。 ★指定避難所開放についてお知らせします。
避難勧告	<ul style="list-style-type: none"> ★指定避難所、一時避難所又は安全な場所に避難しましょう。 ★外出が危険な場合は、家の中で河川・山林と反対側の2階などに移動してください。
避難指示 (緊急)	<ul style="list-style-type: none"> ★(避難勧告と同じ) ★(土砂災害等が実際に起きた場合に発令し、少なくとも応急工事が完了するまで継続することが多い。)

【洪水等水災害に係る避難勧告等発令基準】

河川名	判断基準	避難準備	避難勧告	避難指示(緊急)
		高齢者等避難開始		
由良川	■福知山(国)観測所	5.0m	5.9m	—
	■由良(国)観測所	1.5m	1.7m	1.9m

※由良川に関しては、上流域からの洪水以外にも高潮の影響を受けることから、福知山観測所と由良観測所における水位により避難勧告等の発令を判断する。
 ・福知山(国)観測所水位は5.9mで「氾濫危険水位情報(洪水警報)」が発出される。
 ・由良観測所は由良川沿線最低地盤高1.641m、道路高2.031mを基に0.2m/hの水位上昇を考慮したもの。§計画高水位2.366m(水位は何れもT.P値を加味した観測所値)

◀情報発表地域▶

- 浜野路、港、下石浦、上石浦の洪水浸水想定区域

由良地区の国道通行規制基準

奈具海岸 連続雨量200mm超(神埼観測所)
 由良川沿 道路冠水により

お問合せ

- 由良川洪水浸水想定、由良川沿国道通行規制に関すること
国土交通省・近畿地方整備局・福知山河川国道事務所 Tel 0773-22-5104
- 奈具海岸国道通行規制に関すること
京都府・丹後広域振興局・丹後土木事務所 Tel 0772-22-3244
- 避難情報、指定避難所に関すること
宮津市・総務部・消防防災課 Tel 0772-45-1605

立退き避難先



由良地区の浸水・内水被害の軽減に向けて

課題

- 整備計画に対する地域住民との合意
- 由良川本川の治水対策(輪中提整備計画)と内水対策(都市下水路整備計画)の整合

取組内容

- 由良川本川の治水対策(輪中提整備計画)をまとめるため、国土交通省及び関係機関と協議を行いながら、地域住民との合意形成を図る。
- 由良川本川の治水対策(輪中提整備計画)と整合を図り、由良地区の内水対策(都市下水路整備計画)の手法等について地域と調整を図る。

【都市下水路及び内水対策の構想】

【堤内地からの景観】



大野ダムの洪水調節と情報の充実に向けた取り組み状況

課題

- ・平成30年7月豪雨では、由良川沿川において家屋浸水が発生した。
- ・大野ダムでは、特別防災操作を実施するなど下流の水位低減に効果を発揮したが、より効果的なダム操作やより有効な情報提供について検討

取組内容

- 「京都府大野ダムの洪水調節機能と情報の充実に向けた検討会」の開催（H30年度3回開催）
- 事前放流の充実化に向けた実証実験の実施
- 緊迫感の伝わる放流連絡様式の改良、視覚的に伝わりやすいホームページの内容改善（令和元年6月）
- 平常時からダム情報の発信や住民向け説明会の実施

【事前放流の充実化に向けた取り組み】

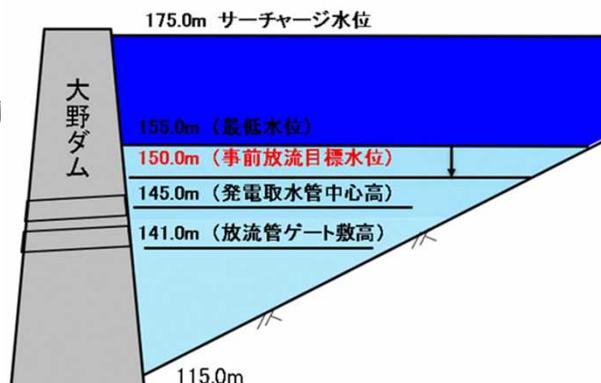
○ダム管理設備、貯水池、放流水などへの影響の有無を確認するため、目標水位まで水位を低下させる実証実験を実施
 <実証実験の状況>

令和元年 5月23日 目標水位EL154.0m(1m低下)

令和元年10月31日 目標水位EL153.0m(2m低下)

令和2年 10月26日 目標水位EL150.0m(5m低下)

○これまでの実証実験結果を踏まえ、令和3年6月より目標水位EL150.0mとする事前放流の運用を開始



【大野ダムの啓発用マンガの制作】



ダムの啓発用マンガ

○府民等にダムの役割や仕組みを解説するとともに、正しいダムの知識を持ってもらうため、啓発用マンガを制作
 大野ダム見学会などに活用予定

○マンガの概要

- ・大野ダムの紹介
- ・ダムの役割(治水と利水)
- ・洪水調節と異常洪水時防災操作(緊急放流)の説明 等

○京都府ホームページに掲載

京都府ホームページ <http://www.pref.kyoto.jp/dam>

京都府における危機管理型水位計の設置

課題

- 平成29・30年度の豪雨や台風では、府内の中小河川において家屋浸水が相次いで発生。
- 水位計の無い中小河川では、行政の避難指示や住民の自主避難に関する情報が不足。
- 行政や住民自らが水位情報をリアルタイムで入手し、適切な住民避難につなげる体制が必要。

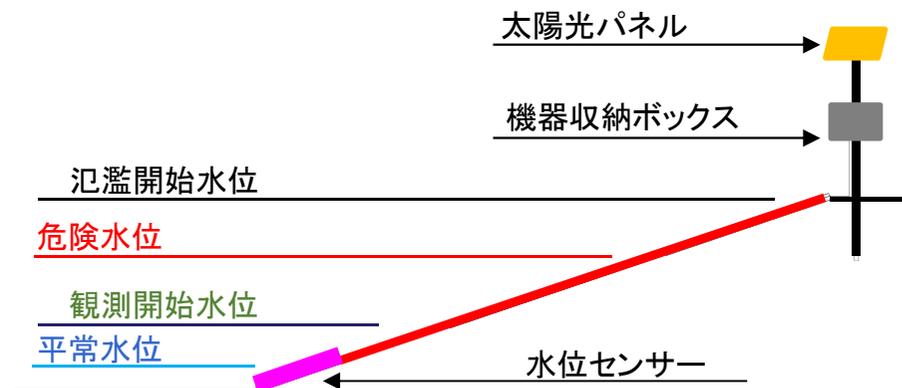
取組内容

- 危機管理型水位計の設置(平成30より3年間で府内中小河川の126箇所に設置)
【うち由良川流域 53箇所に設置(平成30年:28箇所、令和元年:25箇所)】
- HPで洪水時の水位情報を沿線住民に提供し、水防活動や自主避難に活用

【危機管理型水位計の特徴】

- 初期コストの低減
洪水時のみ水位を観測(10分間隔)することで、機器の小型化や電池及び通信機器等の技術開発によるコスト低減
- 省スペース(小型化)
護岸や橋梁等へ容易に設置が可能
- 維持管理コストの低減
太陽光発電併用により無給電で5年以上稼働
洪水時に特化した水位観測によりデータ量を低減し、通信コストを縮減
- 自主避難に活用
避難に十分なリードタイムが確保できない中小河川にも設置し、住民自らの避難判断に活用

【中小河川における危機管理型水位計】



京都府における簡易型河川監視カメラの設置

課題

- 平成29・30年度の豪雨や台風では、府内の中小河川において家屋浸水が相次いで発生。
- 水位計を設置し住民避難の目安となる水位情報を提供しているが、切迫感が伝わりにくい。
- 住民自らが水位情報に加えて河川の状態を把握することで、避難行動につなげる体制が必要。

取組内容

- 簡易型河川監視カメラの設置(令和元年に58箇所に設置)
【うち由良川流域 11箇所に設置】
- HPで洪水時の河川状況(危険性の高まり)を沿線住民に提供し、水防活動や自主避難に活用

【簡易型河川監視カメラの特徴】

- **初期コストの低減**
カメラ性能を制約し水位状況を定期的(5分間隔の静止画)に配信することで、電池及び通信機器等の技術開発によるコスト低減
- **省スペース(小型化)**
既設水位計や護岸等、容易に設置が可能
- **維持管理コストの低減**
太陽光発電を併用、無日照状態で7日間稼働
静止画により配信することで通常の防災カメラよりデータ量を低減し、通信コストを縮減
- **自主避難に活用**
避難水位情報を補完することで、住民自らの避難判断に活用

【簡易型河川監視カメラの設置・撮影状況】



洪水キキクル(洪水警報の危険度分布)の表示改善について

課題

○洪水キキクルでは、由良川本川の流路に内水氾濫の危険度を表示している。
このため、周辺の支川で氾濫のおそれが高まっていることが伝わりにくい。

取組内容

●洪水キキクルの表示方法の改善を実施する。

➤「危険度分布」において「本川の増水に起因する内水氾濫(湛水型の内水氾濫)の危険度」も確認できるように、本川流路の周辺にハッチを掛けて危険度を表示するように改善する。



洪水予報河川(大川)と中小河川の2段階に分けて本川の増水に起因する内水氾濫(湛水型の内水氾濫)の表示改善に取り組む。



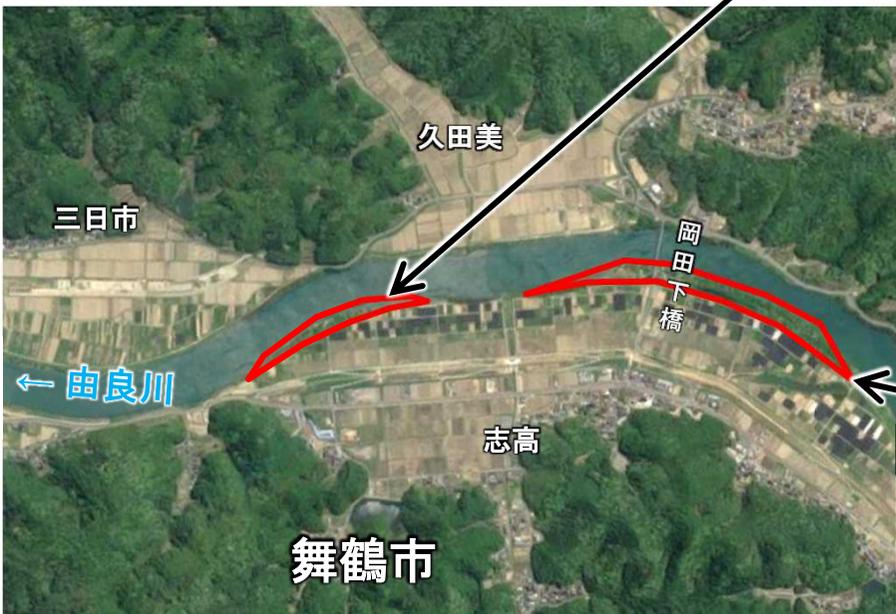
表示方法を含めた検討を継続中(実施時期未定)。

由良川本川水位低減のための緊急事業推進

○平成29年台風21号、平成30年7月豪雨と2年連続で内水被害が発生したことを受け、本川管理者として内水被害軽減のため、外水位を下げる対策を加速して進める必要がある。

取組内容

●河道掘削、樹木伐採



志高地区（下流部）



実施前（令和3年7月）



実施後（令和4年3月）

志高地区（上流部）



実施前（令和3年7月）



実施後（令和4年3月）

由良川本川水位低減のための緊急事業推進

課題

○平成29年台風21号、平成30年7月豪雨と2年連続で内水被害が発生したことを受け、本川管理者として内水被害軽減のため、外水位を下げる対策を加速して進める必要がある。

取組内容

●河道掘削、樹木伐採

綾部市高津町
実施前
(令和3年7月)



実施後
(令和3年10月)



福知山市中地区
実施前
(令和3年8月)



実施後
(令和4年2月)



由良川本川水位低減のための緊急事業推進

課題

○近年多発している出水発生時における、円滑かつ復旧活動の拠点として河川防災ステーションを整備するものである。

取組内容

- 令和3年7月、由良川で初めて整備された「由良川防災ステーション」を開所。
- 近年多発している大規模出水に対し、水防活動の拠点として円滑かつ効果的な河川管理施設保全活動及び緊急復旧活動を実施するものである。



※水防活動及び復旧活動を行う上で必要な土砂やブロックなどの緊急用資材を事前に備蓄しておくほか、資材の搬出入やヘリコプターの離着陸などに必要な作業面積を確保するものです。

※洪水時には、市町が行う水防活動を支援し、災害が発生した場合には緊急復旧などを迅速に行う拠点となります。



排水ポンプ車のアクセス性向上

課題

・排水ポンプ車のアクセス路整備堤防天端の舗装

取組内容

●排水ポンプ車の走行経路となる堤防天端について舗装整備を実施

